

資産運用レポート：華族の株式投資

1 はじめに

企業の部分所有権である株式は、資本主義社会における最も有利な投資対象です。ゆえに資本家と呼ばれる層は、資産の大部分を株式で保有していると言われています。

もっとも、その実態が白日の下にさらされることは、滅多にありません。本当に儲けている人々は口をつぐむのが、世の中の常だからです。

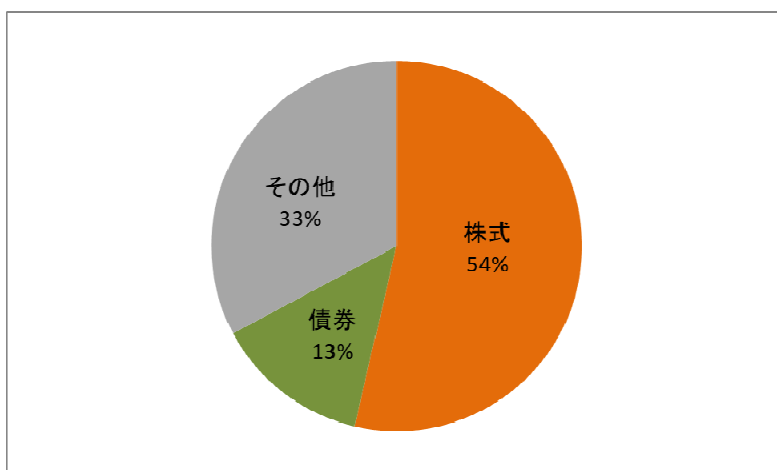
実は私も、一番知りたいのは「資本家がどのように株式投資を行っているのか」です。ところが意に反して、具体的な事例の収集がはかどりません。

そんな中で、割とデータを得られるのは、学者の研究対象になっている明治時代です。

今回の資産運用レポートでは、明治時代の有力華族であった旧岩国藩主吉川家（きっかわけ）を事例に、資本家の株式投資について探っていきます。

なお1898年（明治31年）における吉川家の保有株式評価額は全国49位、華族全体では19位と、全国レベルでも有数の存在でした。

★吉川家のアセット・アロケーション（1908年）



2 吉川家の総資産額

まず総資産額の推移を確認します（次ページ表）。

1891年（明治24年）から1909年（明治42）にかけて、吉川家の総資産額は105万円から271万円まで大幅に増えています。